

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



生活の質を保った
がん医療を共に考える

腫瘍内科・がん総合医療センター長 榮 達智

特集

腫瘍内科・がん総合医療センターのご紹介

- VOICE
- 医学シリーズ 麻酔科
- くまびょう TOPICS
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 外来担当医名簿

患者さまをお待たせしないためにご紹介は、
外来紹介予約センターをご利用ください。



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明



096-353-6565
096-353-6566

FAX 096-353-6563

受付 平日 8:30 ~ 17:00

国立病院機構熊本医療センター 外来紹介予約センター

独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター
National Hospital Organization Kumamoto Medical Center



熊本医療センター 検索 ホームページ QR コード ▲

特集 腫瘍内科・がん総合医療センターのご紹介

がん総合医療センターは、化学療法センター、緩和ケアセンター、がん相談支援センターの3つの機能を持っており、リンパ浮腫外来と腫瘍内科外来も合わせ新館5階に全てのがん患者さんの対応が出来るようになっています。化学療法センターでは生活の質を維持した抗がん剤治療を目指し一人一人の患者さんの体調、副作用の有無を把握し、対応を検討しています。緩和ケアセンターは緩和ケア外来を行い、また病棟の緩和対応患者の情報を集約し対応の推奨を行っています。がん相談支援センターは現在の第4期がん対策推進基本計画で最重要視されています。がんと診断されたら治療導入前にまず立ち寄っていただき、その後の療養に必要な制度の紹介や就労支援から、療養環境の手配に至るまで、患者さんの治療から緩和ケアまでのトータルサポートを行っています。

がん総合医療センターには医師・看護師・事務など常駐するスタッフは多くはありませんが、多くの職種例えば、歯科医師・薬剤師・セラピスト・公認心理師・管理栄養士などにそれぞれの専門性を生かし対応して頂いています。患者さんのニーズは人それぞれで聞いてみないと分からないものです。そのため、がん

総合医療センターではアドバンスド・ケア・プランニング (ACP) の考え方を取り入れ、治療中の生活で大切にしたい事、どのような療養を好ましいと思うかなど、話し合いながらその人らしい生活を実現することを目標にしています。

治療方針に苦慮する症例の多科多職種によるカンサーボードも開催しています。また患者サポート面では、患者さんとそのご家族が集う二の丸がんサロン、ピアサポーターと悩みについて語り合うおしゃべり相談室なども行っておりますので、興味をお持ちの方がおられましたらこの様な会の存在をご紹介いただければと思います。

より良いがん治療を目指し活動していきますので、どうぞよろしくお願ひします。

腫瘍内科・がん総合医療センター長

さかい たつり
榮 達智

専門分野

血液内科、造血幹細胞移植、内科一般、腫瘍内科、緩和ケア

専門医・所属学会など

日本内科学会専門医・指導医・認定医、日本血液学会専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医・指導医、日本癌治療学会、日本緩和医療学会、日本呼吸器学会



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE

登録医の声

医療法人 創起会
くまもと森都総合病院

院長 **すずしま ひし**
鈴島 仁



◆貴院のアピールをお願いします

熊本市中心部の大江地区に高野病院と隣り合わせに立地しています。熊本地震翌年の2017年に新築移転してきました。免震構造でできていること、大江の一番の高台に位置していることから地震・水害などの災害に強い病院です。

診療は乳癌、血液癌、消化器癌などのがん診療を中心に急性期医療を行っており、緩和ケア病棟も備えていることから手術・化学療法などの積極的治療から緩和医療までを切れ目なく対応しています。

当院にはICUがないことから熊本医療センターの救命センターには日頃から大変お世話になっています。緩和ケア病棟を含めた緩和医療には力を入れていますので、今後も医療連携をよろしくお願いいたします。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

当院は歩いて20分程で街の中心部に行くことができます。趣味は夜の繁華街の明るい灯りに照らされて、大好きなホッピー（プリン体オフのため健康的と信じている）を堪能することです。熊本ではホッピーを出してくれるお店は少ないのですが、やはり熊本で少ない“焼きとん”を味わうことができる『おにくの大将（安政町）』というお店で、至福の一時を過ごすことができます。



◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

いつも緊急時に当院の診療科で対応できない患者さまを速やかに対応していただいております。大変感謝しています。今後も同様をお願いすることになると思われますが、当院は地域包括ケア病棟をコロナ対応後の5月から再開いたしましたので、ポストアキュートとして今後是对応させていただきたく存じますので、何卒よろしくお願いいたします。

【診療科目】

総合診療科、肝臓・消化器内科、血液内科、循環器内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、呼吸器内科、代謝・内分泌内科、外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、眼科、皮膚科、緩和ケア科、麻酔科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科

【診療時間】

平日 8:00 - 11:00、12:30 - 15:30

（※診察時間は各科によって異なります。）

【住所】

〒862-8655 熊本市中央区大江 3-2-65

【TEL】

096-364-6000

【FAX】

096-362-5204



最近のトピックス

術後疼痛緩和について

国立病院機構熊本医療センター
麻酔科医師もりなが まや
森永 真矢

手術とは「外科的器具を用いて生体を切除する治療」を指します。治療に伴って神経組織が損傷し炎症反応が起こるため、痛みが発生してしまいます。全身麻酔下の手術中は意識も痛みも無い状態ですが、手術が終わって意識が戻った後に痛み（術後疼痛）が生じます。麻酔科はこの疼痛をできるだけ小さく、手術を受ける患者さまの不快な症状を可能なかぎり減らすべく、手術に応じて様々な計画を練ります。

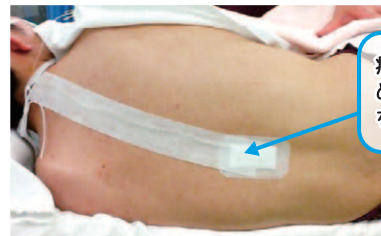
通常なら鎮痛薬は内服することが多いと思いますが、手術の後はしばらく絶食期間があるため、内服できるまで時間がかかります。そのため術後は区域麻酔や点滴・座薬で疼痛の緩和を図ります。

区域麻酔とは主に局所麻酔薬を使用して痛みを伝える神経をしびれさせる鎮痛法で、代表的な方法として硬膜外麻酔と超音波ガイド下末梢神経ブロックがあります。一般的に、傷の大きな胸腹部の手術や両股・両膝関節の手術では、硬膜外麻酔を用います。背中に細いカテーテルを留置することで、術後数日のあいだ局所麻酔薬を持続的に注入することができます。傷の小さな胸腹部の手術や肩・片股・片膝関節の手術では、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用います。超音波装置（エコー）を使用して神経の周りに局所麻酔薬を注入し、時にカテーテルを留置することもあります。

点滴ではオピオイド（医療用麻薬）・非ステロイド系抗炎症薬・アセトアミノフェンなどを使用します。作用機序の異なる複数の薬剤を組み合わせるこ

とで、副作用を軽減し薬の使用量も減らすことができます。

硬膜外麻酔



痛み止めを入れるための細いカテーテルを留置します。

区域麻酔でも点滴でも、PCA（Patient Controlled Analgesia）ポンプを使用することがあります。これは自己調節鎮痛法とも言われる方法で、痛みを感じたときに自身でボタンを押すことで、安全な量の鎮痛薬をすぐに追加投与できる仕組みです。痛みは客観的に評価しにくく、また同じ手術でも痛みの感じ方は人により異なるため、患者さまが自己調節できるようにすることで、より細やかな疼痛管理が可能になります。

術後の疼痛は、無気肺や心筋梗塞のリスクとなることがわかっています。術後早くから疼痛を緩和することによって、不快な症状を和らげ、積極的にリハビリを進めることでこれらの合併症を減らすことができます。患者さまそれぞれに適した術後疼痛管理を行うことで、手術を受けられた患者さまのより早い回復を目指しています。

PCAポンプ



痛みがあるときに患者さまがご自身でボタンを押して安全な量の痛み止めを流すことができます。

背中の細いカテーテルや神経ブロックのカテーテルにつなげます。

くまびょう TOPICS

8/28 (月) | 令和5年度診療放射線技師特定技能派遣研修 (救急放射線 (ERセミナー)) を受講して **放**

【筆者】 診療放射線技師：清水 航平



令和5年8月28日～8月30日の3日間、当院にて開催された令和5年度診療放射線技師特定技能派遣研修(救急放射線 (ERセミナー))に参加させていただきました。

セミナーでは高橋院長をはじめ、多様な診療科の講義を受講させていただき、とても勉強になりました。また、実技演習として救急外来医療体験の研修をしました。実際に救急外来からの目線で放射線科を客観的に見ることができ、迅速で正確な検査を求められていることを感じました。

今回の研修を通して、自施設でもなかなか経験できないことを多く学ばせていただきました。また、診療放射線技師としての役割や他職種との関わり、チーム医療の在り方などを考え直す良い機会となりました。今回学んだことをこれからの業務に活かしていきたいと思います。

最後に今回の研修を企画・運営して頂きました熊本医療センターの皆様並びに、講師の先生方に、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

【場所】 熊本医療センター



9/17 (日) | 令和5年度熊本県肝疾患コーディネーター 養成講座に参加しました **医**

【筆者】 7西病棟看護師長：山田 里香



令和5年9月17日(日)、くまもと県民交流館パレアにおいて、熊本県肝疾患コーディネーター養成講座が開催されました。

当院からは、看護部、薬剤部、栄養管理室、検査科より15名が受講し、更新含め16名が肝疾患コーディネーターに認定されました。

講座では、肝炎、脂肪肝、肝硬変、肝がんについての基礎知識から最新情報、自治体での対策やコーディネーターの役割についての講義のほか、現在コーディネーターとして活動されている多職種によるパネルディスカッションがありました。

肝炎についての正しい知識の普及啓発や、肝炎患者の治療や生活に関する相談など、コーディネーターとしての役割が発揮できるよう、今回の学びを活かしていきたいと思います。12月10日当院で開催される公開肝臓病教室では、消化器内科医師の他、多職種による情報提供や医療・健康相談を行います。患者さまだけでなく、肝臓病に関心のある方に参加いただきたいと思います。

【場所】 くまもと県民交流館パレア パレアホール



9/8 (金) | 令和5年度 救急医療功労者熊本県知事表彰 **医**

【筆者】 副院長：日高 道弘



令和5年9月8日金曜に救急医療功労者熊本県知事表彰を受けました。当院は24時間365日をカバーする救急体制を掲げています。核となる救急部スタッフの奮闘は言うまでもありませんが、それに加え全34診療科が病院を挙げてとり組んでいる点も当院救急の特徴の一つです。救急部を中心として全診療科がそれぞれの立場から熊本県の救急医療体制を支えていることが評価され、今回代表として表彰を受けることになりました。各診療科の皆様、さらにはこのような体制を作りあげられた高橋院長、救急部の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。



9/27 (水) | 第198回救急症例検討会 (特別講演) が開催されました。 **医**

【筆者】 救命救急部長：櫻井 聖大



令和5年9月27日(水)、研修センターホールにて、第198回救急症例検討会が開催されました。同会は年に7回開催されますが、毎年9月開催分は特別講演となっており、御高名な先生に来院頂き、救急領域に関連した内容の御講演をいただいています。

今回は長崎大学病院高度救命救急センター長で教授の田崎修先生をお招きし、「地域の救急医療体制改善に向けた取り組み」というテーマでご講演いただきました。長崎県における救急医療の現状や課題についてのお話があり、地域の救急医療において長崎大学病院高度救命救急センターがどのような役割を果たしているかを、とても分かりやすくご講演頂きました。また、実際の臨床で遭遇した症例についても動画等を用いて提示いただき、非常に勉強になる内容でした。

他県の救急医療の現状を、睡眠学習になることなく知ることができ、ご参加いただいた医師、看護師、コメディカル以外にも、消防の方々にとっても有意義な会だったのではないかと思います。

【場所】 2F研修センターホール



Medical Intern Report 研修医レポート

臨床研修医

もりなが みき
森永 実樹



こんにちは。研修医1年目の森永実樹と申します。佐賀大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修を開始して半年が経とうとしております。

私の研修生活は麻酔科から始まり、外科、小児科、精神科とまわっていき、現在は産婦人科にて研修を行なっています。麻酔科では、優しい先生方のご指導のもと、末梢静脈路確保や気管挿管をはじめとした様々な手技や、呼吸器管理、循環動態の管理の仕方などを学びました。高齢者の方や肥満の方は管理が難しく、目を離せないような状況も経験させていただきました。

その後の外科では手術に加えて術後管理を初めて経験しました。輸液の速度や創部・仏痛管理、食事開始やドレーン抜

去のタイミングなど、様々なことを指導医の先生と行いました。外科の時は自分の知識不足により先生の指示に従い、日々をこなしていくことで精一杯だったのですが、この時学んだことが今の産婦人科ではとても役にたっています。自分で輸液量や仏痛管理などを考えて指導医の先生に提案できるまで成長できたのは、外科での経験があったからだと思います。

小児科では小児診察の難しさを実感しました。なかなか思ったような診察ができず、難渋することもしばしばありましたが、可愛い子供たちと毎日触れ合える環境はとても幸せでした。精神科では不眠時・不穏時の薬の使い方を知ることができ、今後の病棟管理で使える充実した経験をさせていただきました。

まだまだ不慣れなこともあり、ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、皆様のお役に立てるように2年間の研修医生活でより多くのことを学び、精進して参りたいと思っております。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医

もりや としひで
守屋 俊英



こんにちは。研修医1年目の守屋俊英と申します。福岡大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいており、研修が始まって6ヶ月が経とうとしております。研修が始まったばかりの頃はわからないことばかりで何をすることも指導医の先生や2年目の研修医の先生方、スタッフの方々にお世話になり、自分の無力さを実感する日々でした。しかし最近は徐々にではありますが出来ることが増えてきたと感じます。しかしまだまだ未熟な面が多く、多くの方々に支えていただきながら研修させていただいております。

私は、循環器内科から研修が始まり、救命救急部、産婦人科、小児科、精神科とローテートさせていただいております。

循環器内科ではまず、電子カルテの使い方、薬や検査のオーダーの仕方など基本的なことを学ぶことから始まりました。それと同時にカテーテルやPICCなどの手技、また病棟管理や患者様との接し方など様々なことを先生方から丁寧に教えていただきました。指導医の先生の下ではありますが治療などで実際に患者様と関わることができるといって学生との大きな違いを実感することができたのと同時に、研修医として働くという責任感を強く感じることができました。

どの診療科を回っても熱心に教えてくださる先生ばかりで、日々成長できる恵まれた環境で研修できることを非常にありがたく思っております。これからも御迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、少しでも皆様や患者様のお役に立てるように日々精進していきたいと思っておりますので2年間どうぞよろしくお願いいたします。

2023年11月 研修のご案内

第66回 診断と治療－最新の基礎公開講座－
〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶11月4日(土) 15:00～17:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「出血性疾患の鑑別と治療」

座長 くまもと森都総合病院 院長 鈴島 仁 先生

(1) 止血のしくみ

国立病院機構熊本医療センター副診療部長/血液内科部長 河北 敏郎

(2) 血小板減少症を来す疾患と治療法

医療法人社団井上会 理事長 井上 佳子 先生

(3) 血液凝固線溶反応の基礎と臨床

熊本大学病院血液内科講師/輸血・細胞治療部 内場 光浩 先生

第143回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会

日時▶11月8日(水) 17:30～18:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

二の丸モーニングセミナー

日時▶11月9・16・30日(木) 8:15～8:45
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第35回 熊本PEECコース【WEB】

日時▶11月12日(日) 9:00～13:00

熊本県臨床検査技師会・病理細胞部門

日時▶11月16日(木) 18:30～20:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

歯科) 救急蘇生法講座

日時▶11月16日(木) 19:30～21:30
場所▶国立病院機構熊本医療センタースキルアップセンター(新館6F)

講師 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長/麻酔科部長 瀧 賢一郎

第165回 公開看護セミナー

日時▶11月18日(土) 13:00～15:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「看護倫理」

社会医療法人博愛会相良病院緩和ケア支援センター顧問 江口 恵子 先生

第296回 月曜会(内科症例検討会)
〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

日時▶11月20日(月) 19:00～20:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1 消化器内科からの一例 2 脳神経内科からの一例

第199回 救急症例検討会【WEB】

日時▶11月22日(水) 18:00～19:00

「航空医療/熊本県へり救急運行調整委員会症例検討部会」

小児科火曜会【WEB配信あり】

日時▶10月28日(火) 19:00～21:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室1

令和6年度 研修センターより プログラムに関するアンケートのご協力をお願い

日頃より国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターをご利用頂き誠にありがとうございます。

研修センターでは、来年度のプログラム作成のためアンケートのご協力をお願いしております。

ご多忙中誠に恐れ入りますが何卒ご協力の程お願い致します。

右のQRコードを読み取り、各研修についてのご意見、ご要望等を入力されて送信してください。

ホームページからもダウンロードできますので、FAXでもお受付いたします。

皆様のご意見をお待ちしております。



患者さまをお待たせしないために

ご紹介は、外来紹介予約センター

受付 平日 8:30 ~ 17:00

をどうぞご利用ください。

096-353-6565 096-353-6566

FAX 096-353-6563



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明

令和5年11月外来担当医名簿

国立病院機構熊本医療センター



診療科		月	火	水	木	金	
総合医療センター (内科)	総合診療	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	
	血液	河北 敏郎 杉谷 浩規	原田 奈穂子 中村 貴久	古川 翔大 井上 佳子	日高 道弘 河北 敏郎	原田 奈穂子 窪田 晃	
	糖尿病・内分泌	西川 武志 (午前新患) 西田 周平 (午前再診)	西田 周平 (午前新患) 西川 武志 (午前再診)	西川 武志 (午前新患) 井手口 拓弥 (午前再診)	木下 博之 (午前新患) 最勝寺 博之 (午前再診)	井手口 拓弥 (午前新患) 木下 博之 (午前再診)	
	呼吸器センター	名村 亮 原 英記 (院内コンサルト)	小野 宏 熊大医師 (院内コンサルト)	小野 宏 原 英記 (院内コンサルト)	名村 亮 原 英記 (院内コンサルト)	小野 宏 原 英記 (院内コンサルト)	
	感染症内科	小野 宏	小野 宏	小野 宏	小野 宏	小野 宏	
	腎センター (腎臓内科)	梶原 健吾	吉井 隆一	中村 朋文	東 大樹	富田 正郎	
	腫瘍内科		榮 達智	榮 達智 磯部 博隆	境 健爾 (第1・第3・第5木曜のみ)	榮 達智	
消化器病センター (消化器内科)	診察	1 診	石井 将太郎	杉 和洋	杉 和洋	向坂 健佑	
		2 診	松山 太一	中田 成紀	石井 将太郎	中田 成紀	
		3 診	山本 祐弥	向坂 健佑	佐々木 大亮	楠本 周平	佐々木 大亮
	内視鏡	午前	中田 成紀 向坂 健佑 佐々木 大亮	松山 太一 佐々木 大亮 山本 祐弥	中田 成紀 山本 祐弥 山本 祐弥	中田 成紀 向坂 健佑	石井 将太郎 山本 祐弥 楠本 周平
		午後	中田 成紀 向坂 健佑 佐々木 大亮 楠本 周平	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥 楠本 周平	中田 成紀 松山 太一 山本 祐弥 楠本 周平	中田 成紀 石井 将太郎 向坂 健佑 佐々木 大亮	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥
		腹部超音波	杉 和洋	楠本 周平	向坂 健佑	山本 祐弥	杉 和洋
	心血管センター (循環器内科)	新患	木村 優一 山村 智	奥野 佑樹 (隔週) 玉野井 俊介 (隔週)	片山 哲治	田山 信至	藤本 和輝
再来		田山 信至	藤本 和輝	山村 智	奥野 佑樹 玉野井 俊介 白尾 友宏	片山 哲治 木村 優一	
(心血管外科)		手術日	岡本 健	田中 睦郎	手術日	岡本 健	
精神・神経科	初めの方						
	2回目からの方						
小児科	診察	水上 智之	渡邊 優	水上 智之	水上 智之	渡邊 優	
	免疫	水上 智之		水上 智之	水上 智之		
	血液	石田 昌宏		横山 智美		右田 昌宏	
	アレルギー		渡邊 優		緒方 美佳		
外科	東 孝曉 日高 香織 (隔週)	水元 孝郎 松本 克孝 中村 健一		岩上 志朗	宮成 信友 松石 梢	久保田 竜生 丸野 正敬	
脳神経センター (脳神経外科)		中川 隆志 大塚 忠弘	手術日	田嶋 恒三 大塚 忠弘	中川 隆志	伊東山 剛 大塚 忠弘	
	1 診	幸崎 弥之助	田北 智裕	高松 孝太郎	小阪 崇幸	津田 幸元	
2 診	高松 孝太郎	小阪 崇幸	津田 幸元	幸崎 弥之助	田北 智裕		
整形外科	午前	福元 哲也 福田 和昭 寺本 周平	手術日	福元 哲也 前田 智 福田 和昭	手術日	前田 智 中馬 東彦	
	午後	福元 哲也 福田 和昭 寺本 周平		大島 慶久		満瀬 葉介 中馬 東彦	
泌尿器科	前田 喜寛 矢野 大輔	菊川 浩明 鮫島 智洋 村上 栄敏	担当医 (手術日) (紹介のみ)	前田 喜寛 矢野 大輔 東 俊之介	高橋 菊川 浩明 えりか / 担当医		
産婦人科	高木 みか 瀬尾 優太郎	山本 直 坪木 純子	手術日	高木 みか 瀬尾 優太郎	山本 直 坪木 純子		
感覚器センター (眼科)	榮木 大輔 幸野 理久 中西 美穂	(手術日)	榮木 大輔 幸野 理久 中西 美穂	(手術日)	榮木 大輔 幸野 理久 中西 美穂		
感覚器センター (耳鼻咽喉科)	手術日	上村 尚樹 寺田 夕希	手術日	担当医	上村 尚樹 寺田 夕希		
感覚器センター (皮膚科)	初診 (紹介あり)	中原 智史	牧野 公治	石橋 卓行	担当医	哈 斯塔 (ハスタ)	
	再診 (初診 その他)	中原 智史 石橋 卓行	牧野 公治 哈 斯塔 (ハスタ)	中原 智史 石橋 卓行	担当医 (手術日)	牧野 公治 哈 斯塔 (ハスタ)	
難治性皮膚疾患治療センター	月・水・木のみ、午前10時～、1日1例限定 詳細は、熊本医療センター皮膚科 Web サイトをご覧ください。						
形成外科	(午後)	大島 秀男 (リンパ浮腫外来)	(午後)		(午後)	(午後)	
	東野 哲志 堺 菜穂 蓮田 敏也	担当医 (紹介のみ)		手術日	大島 秀男 東野 哲志 堺 菜穂 蓮田 敏也	大島 秀男 堺 菜穂 蓮田 敏也	
放射線科	治療 (予約制)	富高 悦司、吉村 文博					
	画像診断	根岸 孝典、浅尾 千秋、伊藤 加奈子、井上 聖二郎、神戸 あゆみ、吉村 文博、吉松 俊治					
麻酔科	宮崎 直樹 (術前診察 / 麻酔相談)					(午前のみ) 瀧 賢一郎 (麻酔相談)	
緩和ケア外来	磯部 博隆	磯部 博隆	磯部 博隆	磯部 博隆	磯部 博隆		
歯科 口腔外科	中島 健 谷口 広祐 天本 晋輔 上田 夏野	中島 健 谷口 広祐 (隔週) 中尾 美文 天本 晋輔 (隔週) 上田 夏野	谷口 広祐 中尾 美文 天本 晋輔 上田 夏野	中島 健 谷口 広祐 天本 晋輔 上田 夏野	中島 健 谷口 広祐 中尾 美文 天本 晋輔		
	櫻井 聖大 渋谷 崇行 橋本 聡 松本 克孝 國友 耕太郎 吉村 文孝 深水 浩之 杉野 大樹 寛之	櫻井 聖大 橋本 聡 橋本 克孝 久保崎 順子 深水 浩之 杉野 大樹 寛之	櫻井 聖大 渋谷 崇行 橋本 聡 松本 克孝 深水 浩之 木村 文彦 杉野 大樹 寛之	櫻井 聖大 渋谷 崇行 橋本 聡 松本 克孝 深水 浩之 杉野 大樹 寛之	櫻井 聖大 渋谷 崇行 橋本 聡 深水 浩之 宮内 大介 杉野 大樹 寛之		
看護外来	ストーマ	認定看護師	認定看護師	認定看護師	認定看護師	認定看護師	
	がん看護	認定看護師	認定看護師	認定看護師	認定看護師	認定看護師	
	移植後フォローアップ	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	

(注) 担当医は都合により変更することがあります。 手術日はお待たせする場合がございますので、御了承ください。

R5/11/1